

認知症と

「胃ろう」の功と罪



増え続ける認知症：認知症終末期や種々の

病気で口から食べられなくなったり、嚥下機能が落ちてきた人には、

胃に小さな孔を開け、管を通しての人工栄養法である

「胃ろう」を医師は勧めます。これをいったん造設すると、

容易に中止ができません。中止は、死に直結するからです。

人生の終末期に突然求められる、胃ろうという選択への判断。

私たちはそれにどう対処していけばよいか…。

「平穩死」から考える胃ろうの功と罪について、

これまで500人以上の患者を在宅で看取った

尼崎の町医者という立場からお話しします。

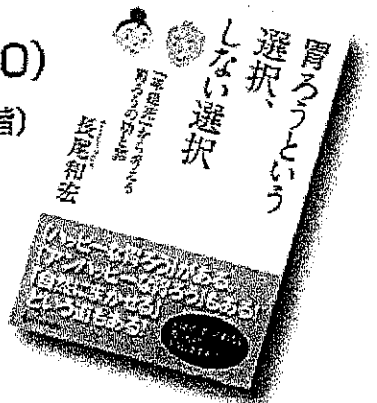
講義の後半に質疑応答の時間を設けます。

- ◆日 時…5月25日(土)13:30~15:30(開場13:00)
- ◆会 場…アサコムホール(中之島フェスティバルタワー12階)
- ◆講 師…長尾クリニック院長 長尾 和宏

<講師略歴>1958年生。東京医科大学卒業。大阪大学第二内科入局後、市立芦屋病院内科医長を経て、95年、阪神大震災をきっかけに兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。2006年、在宅医療支援診療所として登録。著書に「胃ろうという選択、しない選択」「平穩死」という親孝行」「平穩死」10の条件」「町医者力」「バンドラの箱を開けよう」ほか多数。朝日新聞電子版「アピタル」も365日連載中!

◆受講料…会員2,625円 一般3,150円

☆当日は講師の書籍の販売も予定しています。『胃ろうという選択、しない選択』セブン&アイ出版刊 税込1,575円



お申し込み・お問い合わせは

朝日カルチャーセンター中之島教室 ☎06-6222-5224

「朝日カルチャーセンター」で検索!

朝日カルチャーセンター

検索